



山塔

増補

東都重刻改正

芥子菴七韻抄

誹諧

書肆

文刻堂



叙
 文禄以川の多し
 撰るよるまふあ梨由時
 えいあし撰あ人の書し
 たりすとあるり那
 ちり合類あまらり

司換有向とくをかうすよつて
 こひり 画方字文の也
 あらぬへ 校可てこれと
 学娘も 階梯とす 見え
 人とこ あり 一 環を
 せ成 向 下 へ へ へ へ の

縦あり 守り と 持 の へ
 若母と 依て ながく 不 朽 不
 ぬ ぬ ぬ ぬ

琴 窓 湖 十



第 二

韻譜をくまの記綱目

上巻目録

一 枕考古心得	一丁目	一 等類差別	五丁目
一 韻譜大意	九四丁目	一 表の如字	六丁目
一 現在載るべき	十四丁目	一 三乃	十四丁目
一 年ぬ不のぬ	十四丁目	一 年ぬ不のぬ	同丁
一 七川のや	十五丁目	一 みるぬれ之字	十六丁目
一 うろよ乃之字	十七丁目	一 類字有下ととと最	十七丁目
一 下れりて最	十八丁目	一 下の白ふ最	十八丁目

上

目

上

一 けしきあり	十八丁目	一 刀目あり	十九丁目
一 こそてふとえ	十九丁目	一 云のてはてにえ	二十丁目
一 ちの字のぬ	二十丁目	一 治定ちとえの字	廿二丁目
一 加さねらん	廿二丁目	一 治定のう	廿二丁目
一 ちの字又地又	廿二丁目	一 八字乃付而	同丁
一 句ちるるまぬ	同丁	一 下の白と又四と	廿三丁目
一 文字加まらん	廿三丁目	一 神祇之詞	廿八丁目
一 句教并句去	廿七丁目	一 意之詞	三十二丁目
一 釈教之詞	廿九丁目	一 述懐之詞	四十丁目

一 無常之詞	四十丁目	一 報述懐詞	四十二丁目
一 人傷之詞	四十二丁目	一 居所之詞	四十三丁目
一 報人傷詞	四十二丁目	一 報居而詞	四十四丁目
一 夜分之詞	四十四丁目	一 山顔之詞	四十六丁目
一 報夜分詞	四十五丁目	一 報山顔詞	四十六丁目
一 水意之詞	四十六丁目	一 四季之詞	四十九丁目
一 報水意詞	四十七丁目	一 百款并	九十九丁目
一 面八句	五十六丁目	一 歌仙	百丁目
一 裏一順舉句	五十九丁目	一 批筆法様	百二丁目

一 條 席 光 悟	百 十 目	一 色 紙 短 尺 寸 法 <small>并</small> 書 法	百 八 十 目
一 假 名 考 大 概	百 十 一 目	一 六 義 之 沙 汰	百 九 十 目
一 賦 之 考 考 考	百 十 二 目	一 同 姓 考 考	百 十 六 目

下 卷 目 録

一 去 嫌 い 乃 は 考	一 同 字 別 吟
一 漢 和 考 和 漢	一 芭 蕉 翁 考 古 今 考 考

目 録 之 終

俳 諧 考 の 心 得

何乃道ふもび事ひゆおんとさういふとゆあふして脚を
くくらやまひけ人を解く脚のいんとさういふとて扱アニゲん
ふと目につくあしてあまをふおんとゆれちふとあま
それぢふとふとふとそれちうとゆれ乃乃切名を目ふけ
主後ハ脚のゆれをさ漢をばしへ一カクモイコシ 擧 擧 をけし
記さうとあまがれがゆあられふとちうとあしたとあ川
み川まの基れくわあまのさのうづとさ年れかんさうが
あま一せあま一二月一あま一あま一あま一あま一あま一あま一

乃らばふわらば不^レ覺^ニま^ニ意^ヲ而^レ遠^ニ信^ヲ徳^ヲ之^ヲ換^レ骨^ヲ法^ヲ
とらふやあひゆるん

これ日中をまうりしるぞ小春のうら

いしは踏しこころのうら

これわいせいのこころのつねを別物よとを親操^ニま^ニ志^ヲ形容^ス
之^ヲ徳^ヲ之^ヲ集^メ胎^ニはとらふやうらくゆるん

あまの切字

信^ヲ徳^ヲ 爲^レ果^クう^レま^ニえ^レれ^ニれ^ニ林^ノ外^ニ
ま^ニう^レか^ニ帯^ヲ乃^レえ^レれ^ニふ^ニう^レや^レて
信徳
舉堂

あまの切字 様^ニう^レは^ニう^レの^ニひ^ノ山^ノが 湖春

あまの切字 通^ニあ^ニは^ニび^ノ身^ノは^ニた^ニら^ニう^レと^ニか^ニり^ノか 林下

あまの切字 と^ニう^レれ 我^ノの^ニう^レや^レう^レは^ニと^ニん^ニう^レん^ノも^ニが^ニ非^ニ 一言

あまの切字 かく^ニめ^ニれ^ニ物^ノ初^ニ雷^ノ乃^レう^レま^ニび^ノり 知是

あまの切字 凡^ニち^ニう^レる^ニう^レ年^ノ付^ノも^ニか^ニり^ノ物^ノ考^ノう^レう^レ 信正

あまの切字 ち^ニや^ニり^ノう^レり^ノ海^ノの^ニう^レま^ニた^ニれ^ノ林^ノの^ニ言^ノ 一鉄

あまの切字 木^ノう^レう^レれ^ノ果^ノは^ニう^レり^ノ海^ノ乃^レと^ニく 言水

あまの切字 植^ノう^レり^ノを^ニ操^レ研^ニえ^レれ^ノの^ニう^レり^ノご^ノ 桃雨

あまの切字 た^ニま^ニく^ニを^ニま^ニう^レり^ノん^ノ月^ノ乃^レ言^ノ 去来

えれ

ワがん^年報りし道^レ刻れ揚り 松木

鳴舞をさうとし久むおくれ 空鳥

や

乃^レや^レき牡丹の若れあさき 文丸

や^レり^レや^レみう^レた^レ美の^レい^レき 梅氏

あ^レて^レや^レ蝶も雀とぬる^レや^レく 毛角

花^レあ^レき^レや^レ物^レふ^レく^レ人^レと^レぬ^レ人 不及

か^レう^レ傍^レや^レと^レ向^レら^レを^レて^レ物^レゆ^レぬ 随友

白^レや^レれ^レの^レや^レ月^レの^レう^レ乃^レ心 燈外

家^レの^レち^レら^レや^レあ^レて^レ葉^レ木^レ留 水柳

○

下知

乃^レら^レ葉^レも^レ残^レら^レと^レち^レま^レや^レ梅^レか^レ死 加生

う^レれ^レあ^レら^レぬ^レう^レた^レ人^レ見^レし^レ鐘^レく^レこ 去来

い^レあ^レら^レば^レ炭^レ竈^レは^レく^レせ^レち^レの^レ山 竹翁

か^レら^レ子^レに^レう^レら^レれ^レど^レの^レあ^レら^レう^レこ 竹亭

き^レほ^レと^レう^レち^レひ^レ久^レ 彫堂

ち^レら^レに^レあ^レら^レぬ^レや^レあ^レこ^レり^レ茶^レふ^レ丹 道柯

は^レな^レく^レゆ^レあ^レ茶^レ花^レう^レら^レが^レか^レら^レる^レこ 如泉

う^レら^レふ^レあ^レく^レ花^レう^レら^レま^レの^レ仁^レ五^レ門 正時

て

あ

う

一

子

ま

よ

切字こくくきりかき、苗母の夕と見ゆりし
これぬまゆり

たろぬりいりありかきふがろり
あわりのまいつまをこれゆりぞが切字こくお人
たろ人お母さちろ夕と見ゆり

拙が食ひしめてくろくきりぞろ

又どこの二まの連続ふをたちろふかたゆり
苗母のゆり人の羽ひろ夕と見ゆり
て可定

現在乃かうたか

現在のか 後白りあろり乃後黄きりりか
うきか 十四夜のまのり八月のまか

こけりいはまをとりり他ままれあは傷とゆりゆり

こまに現在未来

あろりきりまきり後りけ教現在
べりわろりかろりちりけ教未来
けあろり現在未来ふろりいづまを切字
あろりあろりあろりけ教現在

これの切字に申すぬ

子母ぬ不のぬ

たふぬたふぬ ちぬちぬ ちぬちぬ ちぬちぬ ちぬちぬ ちぬちぬ ちぬちぬ ちぬちぬ ちぬちぬ ちぬちぬ

右ぬ乃字は下に家の字ぬうひて字入ゆか子母ぬふかの字
乃字と違ふて是にうふとふれぬと申して切字は
ちと同一詞がういさうすのううて子母ぬふとのぬ
ふとあるものなり

乃とぬ、さえぬ、それぬ、をてぬ、あなぬ

をへけいにてえぬれ、うははははぬの字は

ちぬとてとるものも是はたふてはあふとて

七門のや乃は

あひぬや あや者古用とてとく流しとる

此やの者白の切字にもあや白のらんとあや

てとてあはとてあは

切や 子母の種や志とてて空の強らん

此やにありてはてとてあはとあは

推や 平泉たがろる月れ空のぬや

疑のや ころひぬや室ふと梅とあつらん

此やよにも毎てととやとをあるはむや味ん
あつや重ん又うごひ持るやあ被ぬるせとや
たらとあせとやの終へ

中はや 唐と物控^{カキ}や松^{カハラ}ふあ入んく

此やうや松たなしためとやのまをきりれ
てとあつととさやととり

このや 更級^{サキキ}や月ハちまれど田舎ふる

ちあつあや卯月八日の鏡とて

これとのやととりてとあつとあつ

このや いらぬやと後のあつととあつて

これあつ

このや 不存あつらや人でわらうん

これと九やととり此やてとあつとあつ

右のうごのあてち切糸^{カギ}あつ又よまやと有て

てとあつあつとのまうつ乃まはく押入ハあつとと

このやとあつ 又いぬ^{カキ}やとあつ 四^{カハラ}めれやとあつ

九^{カハラ}めれやとあつ 八^{カハラ}めれやとあつ

よてあ押家

を
 〴〵と相まゝなつゝひそめて
 ゆうなる竹二重の川みとりおて
 花の木とゆもれ川海と一葉おて
 竹まゝ道のおとさつゝりおて
 も
 持とせよ身いもゝりぬ命おて
 け
 如くは縁とあをを 不_レ能_レ中_レおて
 け
 けかゝりせよ

放生去_レけりく月ある夜おて
 け
 けかゝりせよの字と〴〵のこつたら

てふをのちある友よとあつゝせよ〴〵れ中_レおて二断_レつゝ
 白とゆり

実_ニ極_ニせし花を〴〵今_レおて
 又生れつゝそのおてとるゝをきか_レおて
 ころふてしん_レおて

あうの虚_ニ字_ニあるはたのちてはえま_レあつてもある

ぞかよのこ字と押字

ぞ
 魚の名を何ぞとて人_レが輪_レりて
 ぞかよのこ字と押字
 名_レのい_レき_レが_レけ_レは_レお_レて

よ
いさぎよきまにせういあざむらて
ゆけよまよそいれまあていそとやあふあをいれ
まへんがらあふ

上に類の文字有ててと多は接

ねえいふ中よ何いふいてたれいづきをれそ
がひま字有てていそとあふを多りぞうまねを
志やうにまらそあふ

いさ
いかにまんあつたうあおの枝あまて
いさ
いはいさふ実極の本れあふて

いづこ
やろあふいれたまをあてい

は偽中まよまよいさま字あていそと服あそれ
物をさうまらふああよていあふれはとま

下の白れてあ

隣子一り月川あふてい
中にひらく川戒をたもちて

此二方のうまやまままま

下乃白よあ

舞の芝一り月か書う人い

下の白きくまの葉をさして糸にしてひきまいてまね
を困ひたうりぬきとめて細い糸をむくひのこしけり

はく留

かまきりやを指乃とひきまいて
この白きはく留の糸よりよき糸にしてぬき

蕨虎杖とりもせし

下れるのはく留の物をさういひてはく留ぬき
まじりぬきてとるりけり

佛ふすまひ ねさたけ

はくよま下の白きはく留の糸をさしてひきまいて
あつたつまきまきとるりけり

刀の留

うくすのぬふ

まきなれあいら 堀二重引
小探繩糸と人乃ゆき
門洗乃家うきりせど
伏見の焼場々つら
ちご磨の磨の磨
細りあつたの糸

十八 塩風よ何事終るる破の巻 ぞ
十六 くれくもるころ月乃貴歌 くれ
十五 悦ころの巻のありしころも ね

をひの字の留

私くらんそくがらんふかぞかかぞか
いづきいさかいでおのころのまあ
ころきと

ぞ 物ころりぞんそがぬきらん
れ ころぬ鏡をたれ友りかん

い 唐やあいでい海なるぞらん
い 鏡のせふいれり用ひあらん
や みづろくとや白髪ぬらん
右あそくあころふ及らんともこのまあ
所あそくいらいれあろぬかぞか
ぞころあふいあておまをばらんのころあふ

はましをひの字

う 響とびてぶりのまぞぬきん
を 夜の巻あはらたをたぬらん

てそふ

ぬらりかん坊主ふこれ後のまじん
隣子させ置たふびん
存いりさあれとて通るん
かこのまじくうごまをあらるのたろとよ下乃
白とよ子切あしは偽お推すれとてうら
隣人しとておはせ

かきひらん

やあざり人物ゆ人鞠をまわらん
ゆるりいふねざらんわらぬらん

これちううねも自然の真ん

法家のう

花のまろあなうらもまじりて
此うふてつていともおのまのまを

かきひん又

かきひん又
さきふん又

地又
未来にまじり

白他今少何とぞとあすちになびく人にとんで白糸とのが
 せは終り^{ツキ}白きふ^{ボラ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}
 やうの^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}
 ち^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}
 ち^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}あふ^{ユハ}
 ありぬ

白教系 去通

同書入る

春杖

二白よりあふちまてづく
二白中くはまてず

神祇

二白中くもくしうも
二白よりあふちまてづく

本懐

二白よりあふちまてづく
二白よりあふちまてづく

多の白

二白よりあふちまてづく
二白よりあふちまてづく

山歌

二白よりあふちまてづく
二白よりあふちまてづく

あふち

二白よりあふちまてづく
二白よりあふちまてづく

五白

夏冬

二白より二白と平白
二白より二白と平白

秋夜

二白より二白と平白
二白より二白と平白

辰所

二白より二白と平白
二白より二白と平白

人倫

二白より二白と平白
二白より二白と平白

三才

三才より多へせと一白也
と云若狭の字一在二

二才

生類 虫、魚、鳥、獸、を
のやうふりたりたる也

二才

植物 木、草、竹、花、を
うむる物と作らる也

二才

夜分 二才より多へせと一白也

二才

降物 一白より多へせと一白也
雨、雪、氷、を
うむる物と作らる也

二才

塚物 二才より多へせと一白也
墓、塚、を
うむる物と作らる也

三才

生類 虫、魚、鳥、獸、を
うむる物と作らる也

二才

植物 木、草、竹、花、を
うむる物と作らる也

二才

夜類 二才より多へせと一白也
夜、を
うむる物と作らる也

二才

四名 二才より多へせと一白也
四、を
うむる物と作らる也

二才

天象 一白より多へせと一白也
天、を
うむる物と作らる也

神祇之類

大常云 物常云

社 荒社、社、末社、古社

玉垣 朱の玉垣、若の玉垣、若の玉垣

神殿 神依、子、社、社、社、社

長友 神脚の老吏、神、神、神、神

夏神系 川中、流、流、流

日影のく、日影のく、日影のく、日影のく

名居 朱の、朱の、朱の、朱の

所そだ 朱の、朱の、朱の、朱の

神系 神、神、神、神

神系 神、神、神、神

神系 神、神、神、神

ツリクキア スミウリノキア
約箱 皮囊箱 被男 被女 被女
高 草乃 店 柴丸 戸

人偏之詞

聖人 大人 秘人 武士
醫師 佛師 法師 揚師 儒者
俗人 藝者 商人 職人
伶人 藝者 羽 境 六尺 伯 承

子 妻 孺 人 舟 人 樁 主 身 家 拙 月
の あ ぐ 死 の あ ぐ 月 の 女
嬢 園 守 狂 人 御 乳 母 人 流 後 撰 文 書 色
警 女 盜 賊 海 賊 盜 人 補 官 神 主 為 者
高 村 和 郎 下 長 者 嫂 妻 親 子 伯 父 伯 母
祖 父 祖 母 姑 舅 娘 姪 孫 後 家 兒 尉 卿
傳 母 御 師 能 老 丈 仕 下 野 良 傾 城 白 拍 子

湯女乃公者 屠兒男女 友在 内義 陣互
 唱食 同者 勢者 越士 播者 舟長 聲
 客交 酒の 研 蓋法 特和 孤 夜堂の 圓 楯
 幾入 傷乃 聖賢 此石
孔子教訓を信ずる人傷むまじく
 佛家の人傷むのれをさとす
 非人 傷人
キヤウジン

非人傷人

東交 皇女 門江 公家 帝 官 親王 女院 本院

仙洞 新院 右子 大者 人間 入道 山根 仙人
 長老 一門 一家 大親 身仍 雅式 信住 曲業
 下戸 眷属 祖師 播者 我者 奉乃 外練
 二人 老若 借大 坊 替播 人 飲 練 音 目
 啞代 友 月と 妻 友 妻 月と 妻 友 妻 月と 妻
 月代 目付 も 心
 一旅 難兵 九 交

富士焼火ユビノタケヒ 煉ユスミ 五孔川ホシ 星と唱トナク 雛名フイナ 夜キヌ
綱代床ツナヨトコ 強頭ユウレイ 産女ツクラン 化物バケモノ 夜茶ヨチヤ 过衣ツレキミ

昨夜分詞

鐘カスカ 交イフマクラ 邪系ヤクシ 分ワケ 夜ヨ 燒火カキヒ 竿アシ 中ナカ
泊トヨ 夜ヨ と 泊トヨ 月ツキ 夕ユフ 夜ヨ 赤アカ 火ヒ 燒ヤク 出デ 山ヤマ 伏フシ
床ユカ 一ヒト 夜ヨ 泊トヨ 禪ゼン 電デン 明アカリ 時トキ 果ミカ ぬ ぬヌ 五イ 四シ 火ヒ
泊トヨ 舟フネ 三サン 月ツキ 出デ 物モノ 助タケ 夕ユフ 月ツキ 夕ユフ の 後ノチ 産ウマ 禪ゼン 茶チヤ

泊トヨ 将サウ 入イ 相サウ 夢ユメ 現ゲン 長チヤウ 初ショ

山類之詞

山ヤマ 炭タン 蕨ワケ 園エン 洞ドウ 岨ジム 坂サカ 谷ヤ 油アブ 尾ビ 之ノ 高タカ 根ネ 蘇ソ
游ユ 鷗ウ 檜ヒノキ 杉スギ 木キ 炭タン 竈カマド 山ヤマ 形カタチ 浮ウキ 信シノブ 小コ 燈トウ
小コ 澗ミヅ 山ヤマ 梨リ の 枝エダ 山ヤマ 鳥トリ の 枝エダ 山ヤマ の 園エン 柗ツラヤカ の 園エン 金カネ 河カハ
乃ナリ 園エン づツ 死シ 久ク 未ミ 終シュウ 乃ナリ 幸コウ 時トキ 九ク 折セ 烟エン 乃ナリ 世セ
の 幸コウ 乃ナリ 世セ 乃ナリ 世セ 乃ナリ 世セ 乃ナリ 世セ

神祇乃祠をせらるるあ道ふらちで古世に載らる
ジシヤ ユトバ スイハコ
 うち或はともよさあつた書入ぬを松多か白れ仕立下
アヒエ
 ろりくら座乃宗重は海ひて用持のたひ有ぬは
ガ メウシヤウ シカカ
 人備はらうては控えれくれり若ちあつては治定志
ジリン
 うつ祠のあつたうたのきうさおわねあまのれま
ニハキ ナホク
 それ播は海ひてまゆぬくはまねたふくをさゆは
カン シカカ ユロロ
 古よりゆいあある教あれど重敷乃たをりあを
フキ
 しむきうかこの世はうらやあうり
トウモウ

四季之朔

春

ロイヤク 青陽 ヒノテイ 青帝 ヤウ 陽春 リョウテン 蒼天 トウラン 東君 ビョウクワ 韶光

正月

正月の親誅ゆさむはな故ふむらう月をとりてをせと畏して
 正月の親誅ゆさむはな故ふむらう月をとりてをせと畏して
 正月の親誅ゆさむはな故ふむらう月をとりてをせと畏して
 正月の親誅ゆさむはな故ふむらう月をとりてをせと畏して

元日 かくの表々方表 四方のそとらそ 初はく日おりの
 元日 かくの表々方表 四方のそとらそ 初はく日おりの
 元日 かくの表々方表 四方のそとらそ 初はく日おりの
 元日 かくの表々方表 四方のそとらそ 初はく日おりの

書畫鴉野

草索 是を唐書よあよりあり鴉野門戸の久

百巻並りいほ 如教 唐にゆり人如教といふ女を乞ひたり後人如教

くはさせりといひていふらるれは書集の中に入てい後入て

合曲教といふり 陰伏と野也 乙春の日わかれ成と律のそ

とせりり 意熱といふく 源熱といふも唐書集の中に入て

いふく 初子れ日 子日乃のわそひ 小書いく 子日の松

末れ物なれ幸少終乃千案にゆり書といふるは松の中に入て小

書いふるにワカナ 初りか 意熱 七らと 初川なをこり

度あつな 破あつじ 多くはむ 子代の水まりりきん 蘇子高橋

初寅より ぶこおり 電岩と天白案 二日 卯村

卯提沖林 二月に卯日まのよらのをとて守りしはこりて二東之

二支大案 二月二乃まの意熱中支のひらこまら下二支

物親約書 二月天子の年終小の意熱 陰陽書 二日 是の

乃ゆり定まらる勢にゆり初りかれ書とせりりや 二ケ日

春日祭 カスガニツリ 園 ソノ 韓神祭 カラカニニツリ 大原野祭 オホハラノニツリ 初 ハツ

身祭 ミニツリ 四日大神まつり二百三十三座乃 ヨリ 祇園御八儀 ギンノミハツカウノ

列見 レツケン 十一日公御赤々納言外記史可冠に ユイケウギヤウ 老翁乃餅くらり

比良八海 ヒラ 二月重初 ニフツノシメ 蓮後 レンゴ

佛乃 ホトケ 二月のつれ ニフツノツレ 仏像 ブツゾウ 漢儀控炬 カンギキョウ

真福 マフク 横橋 ヨコハシ 表分 ウラワケ 乃 ノ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ

社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ

社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ

社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ

社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ

社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ

社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ

社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ

社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ 社日 シヤヒ 沼津酒 ヌマヅウ

五十一
五十二

カヘカリ 丁の花より 花は別 せり 丁 松のつとを

ヒバリ ひぐり文 うそ 琴 こゆる 蔭子 蝶 加様

ハチ 蜂乃 泉此 陸 尾乃 井陸 地虫 出乃 源

穴と出乃 ちあろふの ちり ひと 虫 掻糸 猫さう

猫乃 多此さうろ 初射 ちあろ 燈 蔭 并居 虫

もろこ 飯指 ちぞと 雛の子取 田の 初雷

虫の雷 初稲 ひろろ 八重此 梅 紅毒 越中 梅 茨梅

雷の雷声

ハナ 花と 初心 初様 枝存様 くらえろを 揚イトサクラ 糸様

カミツギ 白玉様 いせ様 飛入様 ちり様 二階様 はろく様 中々さ

本苗代 更焼 登 山とやく 芝焼 母と焼 畑とち ちあろ乃 蔭

とく 蔭乃 蔭 蔭焼 糸 畑の ちさ 田とすく

思 苗代 ちあろ 蔭 のひろろ ちろ大 蔭 ちあろ

ちあろ 蔭乃 蔭 蔭焼 糸 畑の ちさ 田とすく

ちあろ 蔭乃 蔭 蔭焼 糸 畑の ちさ 田とすく

ちあろ 蔭乃 蔭 蔭焼 糸 畑の ちさ 田とすく

ちあろ 蔭乃 蔭 蔭焼 糸 畑の ちさ 田とすく

ちあろ 蔭乃 蔭 蔭焼 糸 畑の ちさ 田とすく

ちあろ 蔭乃 蔭 蔭焼 糸 畑の ちさ 田とすく

ちあろ 蔭乃 蔭 蔭焼 糸 畑の ちさ 田とすく

絶米

東山あまの山寺乃たつこあこほ味

雷鳴

雷の音云々

小暑

六月 温風

温風

大暑

六月 腐

六月 三伏

三伏

夕立

夕立

六月 三伏

三伏

六月 三伏

三伏

六月 三伏

三伏

六月 三伏

三伏

六月 三伏

三伏

六月 三伏

三伏

六月 三伏

三伏

六月 三伏

三伏

六月 三伏

三伏

六月 三伏

三伏

六月 三伏

三伏

六月 三伏

三伏

六月 三伏

三伏

六月 三伏

三伏

六月 三伏

三伏

四ノ目 下鳥羽祭 十日
 仁倉祭 十三日
 白河祭 十日
 岩倉祭 十日
 小倉祭 十日
 初ノ目 粟田口祭 十一日
 一文字祭 十日
 山口祭 十日
 横夷祭 十日
 大正古一
 大正古二
 大正古三
 大正古四
 大正古五
 大正古六
 大正古七
 大正古八
 大正古九
 大正古十

大正古一
 大正古二
 大正古三
 大正古四
 大正古五
 大正古六
 大正古七
 大正古八
 大正古九
 大正古十
 大正古十一
 大正古十二
 大正古十三
 大正古十四
 大正古十五
 大正古十六
 大正古十七
 大正古十八
 大正古十九
 大正古二十

つめこね ユキシツ 常習 ソノリ はあねを カンシキ 常車にのる様

十月 志守と 志持月 梅月 冬月 季冬 端月 除月

びうハ徳家に佛名をたてあひて守押ひしあきしをわろくた
師走月といひて畧して志守ととく

しよれ初日 人のこひさあ 志守大社飯 ユハン 一日六月 大社登 上卯 日四

月に テンゲチンワウ 天智天皇御坐 三卯 十日六月 神竹の御坐 ツキ 月

はれ紫 十日六月 神今食 月日六 正月奉り 十日 御佛名 三月

十九日 おあね におあね カマナシクワシ 拍梨初登 此の坐をあし乃御

クシヤダ 下年日参人神ら此あつ 大牛奉り トキウウシ 大像と メウ

四方の門は法陽神とれ 并茶丸とあ 若誌の及 ナリ 肉付

所の御神系 夜 夜 和布川の神 大

徳も家山忌 二日 斎まの法 毎夜 和布川の神 梅月夜也

追催 物目をまきし 懸催 良分 又祭天社系

中あふ たき舟 ひつたき いそく乃

以さ やくと ひ やくた 音田の大鏡 ヨシダ 大原里

右四首の詞見らるふちをせば後ほさうにきこひて
 ろくもろはくしりも^{イハク}其^{タケイ}郡^{イハク}他^{タケイ}の^{イハク}あ^{タケイ}り^{イハク}と^{イハク}ま^{イハク}
 あり乃^{イハク}と^{イハク}れ^{イハク}又^{イハク}は^{イハク}味^{イハク}多^{イハク}歎^{イハク}風^{イハク}西^{イハク}東^{イハク}の^{イハク}ま^{イハク}り^{イハク}
 能^{イハク}あ^{イハク}ら^{イハク}く^{イハク}く^{イハク}れ^{イハク}は^{イハク}く^{イハク}と^{イハク}つ^{イハク}こ^{イハク}や^{イハク}あ^{イハク}ら^{イハク}は^{イハク}今^{イハク}
 乃^{イハク}と^{イハク}ら^{イハク}の^{イハク}れ^{イハク}ら^{イハク}ち^{イハク}も^{イハク}あ^{イハク}ら^{イハク}は^{イハク}た^{イハク}ら^{イハク}く^{イハク}ゆ^{イハク}ら^{イハク}ぬ^{イハク}と
 ゆ^{イハク}き^{イハク}と^{イハク}と^{イハク}撰^{イハク}の^{イハク}と^{イハク}人^{イハク}を^{イハク}ら^{イハク}が^{イハク}あ^{イハク}れ^{イハク}の^{イハク}書^{イハク}戒^{イハク}ゆ^{イハク}ら^{イハク}ぬ
 可^{イハク}依^{イハク}西^{イハク}の^{イハク}を^{イハク}

面八句

神祇尺^{シノキ}度^{シヤシヤ}と^{シノキ}思^{シヤシヤ}き^{シノキ}き^{シヤシヤ}を^{シノキ}志^{シヤシヤ}懐^{シノキ}く^{シヤシヤ}回^{シノキ}故^{シヤシヤ}人^{シノキ}の^{シヤシヤ}名^{シノキ}

名^{シノキ}亦^{シヤシヤ}同^{シノキ}字^{シヤシヤ}と^{シノキ}傳^{シヤシヤ}へ^{シノキ}但^{シヤシヤ}後^{シノキ}句^{シヤシヤ}神^{シノキ}祇^{シヤシヤ}尺^{シノキ}度^{シヤシヤ}と^{シノキ}思^{シヤシヤ}き^{シノキ}

数句

一座^{シノキ}の^{シヤシヤ}事^{シノキ}以^{シヤシヤ}あ^{シノキ}れ^{シヤシヤ}の^{シノキ}宗^{シヤシヤ}通^{シノキ}貴^{シヤシヤ}人^{シノキ}秘^{シヤシヤ}あ^{シノキ}る^{シヤシヤ}人^{シノキ}ホ^{シヤシヤ}の^{シノキ}外^{シヤシヤ}の^{シノキ}
 み^{シノキ}え^{シヤシヤ}く^{シノキ}び^{シヤシヤ}但^{シノキ}平^{シヤシヤ}句^{シノキ}乃^{シノキ}ら^{シヤシヤ}ち^{シノキ}月^{シヤシヤ}は^{シノキ}来^{シヤシヤ}に^{シノキ}あ^{シノキ}ら^{シヤシヤ}く^{シノキ}の^{シノキ}宗^{シヤシヤ}通^{シノキ}
 乃^{シノキ}ら^{シヤシヤ}ち^{シノキ}ひ^{シヤシヤ}は^{シノキ}使^{シヤシヤ}ひ^{シノキ}と^{シノキ}思^{シヤシヤ}ひ^{シノキ}の^{シノキ}た^{シヤシヤ}ら^{シノキ}さ^{シヤシヤ}た^{シノキ}く^{シノキ}み^{シヤシヤ}は^{シノキ}し
 て^{シノキ}切^{シヤシヤ}な^{シノキ}れ^{シヤシヤ}と^{シノキ}思^{シヤシヤ}は^{シノキ}身^{シヤシヤ}之^{シノキ}句^{シノキ}の^{シノキ}体^{シヤシヤ}の^{シノキ}ひ^{シヤシヤ}と^{シノキ}や^{シノキ}ら^{シヤシヤ}ま
 御^{シノキ}や^{シヤシヤ}こ^{シノキ}く^{シヤシヤ}い^{シノキ}か^{シヤシヤ}う^{シノキ}風^{シヤシヤ}物^{シノキ}と^{シノキ}あ^{シヤシヤ}ら^{シノキ}そ^{シヤシヤ}の^{シノキ}あ^{シヤシヤ}り^{シノキ}氣^{シヤシヤ}一^{シノキ}句^{シヤシヤ}
 の^{シノキ}中^{シヤシヤ}と^{シノキ}り^{シノキ}合^{シヤシヤ}は^{シノキ}る^{シノキ}物^{シヤシヤ}の^{シノキ}名^{シヤシヤ}を^{シノキ}と^{シノキ}が^{シノキ}入^{シヤシヤ}ま^{シノキ}ら^{シヤシヤ}く^{シノキ}あ^{シノキ}ら^{シヤシヤ}ぬ^{シノキ}

あつらひとそとをきくころに社を先とせり白
俵を^{シギ}固まふころへ一おぬの作者或ハ^{テイシユ}亭玉乃
後ふわらびとこ初の一吸は^{ツク}執筆の白あぐバ^{ツク}筆白
執筆の後中こそぬ白にあら文字と揃へ

百額月夜定座

面八白 七白め月の定座 裏十四白 ^{ウラ}
二面十四白 十三白め月の定座 二裏十四白 初わのうくとおあぐ
二面十四白 二面とゆい 三裏十四白 二うくとおあぐ
名残^{ナゲリ}面十白 二面とあぐ 名残^{ナゲリ}裏八白 月あぐ七白め月の
定座と

百額月夜の白ハ貴殿のしれあれた四者ふゆづつとく
あぐやくあぐ一^{ビキ・カカフ}控とせやと母のまうつたよて^{ビキ・カカフ}はあぐ

四十四

うくとそハ百額^{サン}の法と初わと名残のおとと二おあぐて
二二のおとぬたう物と月夜の定座百額^{サン}の法と同あぐ

款仙乃巻

面六白 八白め月の定座 裏十白 ^{ハ白め月の秋はれは定座}
名残^{ナゲリ}面十二白 十白め月の定座 名残^{ナゲリ}裏六白 ^{十一白め月の定座と}八白め月の定座と

臨席下五二号巻

新室の舎にの燈モユやぐらあとの火敷をいそむおのまふり
後乃家カニヨヘた邊の鳴カサツイセン退善にの志シ何ナニせううりぬくく記みち
ゆらふまらほまらぶらぬりぬ中ふらう志シ何ナニせう
何ナニせうイムゆくりくまらほまらぶらぬりぬ中ふらう志シ何ナニせう
鳴フカがぐらぬりぬ中ふらう志シ何ナニせう
まことレノホシ希レノホシまことレノホシ物モノをヲまか故人コシジンの遺戒ユイカイと畧リョウして
たふまらぬ

- 一 空シユフサ座チガ蓮チガ糸チガ
- 一 衣イシマシ裳シヨガ法フシヨガ花フシヨガ命フシヨガ陰フシヨガ不フシヨガ相フシヨガ夏フシヨガ
- 一 雜キタダ白レチ紫レチ白レチ
- 一 雜ナシ白キンシ紫キンシ白キンシ

- 一 高カシギン吟アルヒ或カウマ難カウマ談カウマ
 - 一 貴キニシ人アルヒ或アルヒ見アルヒ因アルヒ長アルヒ此アルヒぞう
 - 一 他イハシマ白アルヒ維アルヒ現アルヒ他アルヒ与アルヒ是アルヒ自アルヒ分アルヒ与アルヒ付アルヒ二アルヒ他アルヒ白アルヒ前アルヒ付アルヒ合アルヒ趣アルヒ向アルヒラアルヒ言アルヒ致アルヒ
 - 一 自アルヒ分アルヒ白アルヒ付アルヒ内アルヒ座アルヒラアルヒ立アルヒ一アルヒ為アルヒ言アルヒまアルヒらアルヒ指アルヒ合アルヒをアルヒとアルヒらアルヒ
 - 一 末アルヒ座アルヒまアルヒらアルヒ白アルヒ教アルヒラアルヒ好アルヒ日アルヒ常アルヒ月アルヒ花アルヒ乃アルヒ白アルヒラアルヒ付アルヒ合アルヒをアルヒとアルヒらアルヒ
 - 一 臆スイミン眠アルヒわアルヒびアルヒホアルヒ
- 夜ヨかカ十ジウ白ハクれレ在ザイ法ホフをヲ有ユとトしシとト志シをヲ見ミとト悲ヒくクまマらラゆユにニ初ソ學ガク乃ノ人ニ先サキ守モリ一ヒト志シをヲしシてテちチらラたタまマふフでデさサめメれレまマらラぬヌ

字のいゆあうと

一 批字ヒテロの分偏ヒテロ一たるのけりのとて序の奥ヒテロも奥と批字次

弟にしろのれキニロー吹声キニローをくまうとく

下れ白の二切ヒテロ下れ又又を

七文字ヒテロのけりのとて序の奥ヒテロも奥と批字次

が多懐帯面のヒテロのけりのとて序の奥ヒテロも奥と批字次

とて序の奥ヒテロも奥と批字次

とて序の奥ヒテロも奥と批字次

とて序の奥ヒテロも奥と批字次

とて序の奥ヒテロも奥と批字次

とて序の奥ヒテロも奥と批字次

傾りぬを大概

一 中のえと書ヒテロの 中とゆくと書ヒテロの 中のえと書ヒテロ

越ヒテロこゆヒテロ 消ヒテロこゆヒテロ 肉ヒテロこゆヒテロ 絶ヒテロたえヒテロ

汗ヒテロさえヒテロ 見ヒテロおぢヒテロ 燃ヒテロもゆヒテロ 肥ヒテロこえヒテロ

金ヒテロいゆヒテロ 有ヒテロくヒテロ 中ヒテロのえと書ヒテロ

一 中とゆくと書ヒテロの 中とゆくと書ヒテロの 中のえと書ヒテロ

志ヒテロか 塩ヒテロ いちり 店ヒテロ 加ヒテロか 親ヒテロ いんか 最ヒテロ

うら ちん 個ヒテロ ちん 親ヒテロ あい

一 端乃と書ヒテロの 小のまいづと書ヒテロの

とぶら小舟 ちりま小橋 とがら小川 との小登

をくら小倉 をく小倉 小倉山 ところ小倉 ところ小倉

をくら小舟 ちりま小橋 ちりま小橋 ちりま小橋

一物のちりま小舟 ちりま小橋 ちりま小橋

玉のを 琴れを 袋のを 書のを

一をくら小舟 ちりま小橋 ちりま小橋

をくら小舟 ちりま小橋 ちりま小橋

一物乃ちりま小舟 ちりま小橋 ちりま小橋

とくら小舟 清の小舟 風の小舟 とくら小舟

とくら小舟 ちりま小橋 ちりま小橋

一との小舟 ちりま小橋 ちりま小橋

とくら小舟 ちりま小橋 ちりま小橋

一とくら小舟 ちりま小橋 ちりま小橋

一とくら小舟 ちりま小橋 ちりま小橋

一奥のちりま小舟 ちりま小橋 ちりま小橋

とくら小舟 ちりま小橋 ちりま小橋

とくら小舟 ちりま小橋 ちりま小橋

とくら小舟 ちりま小橋 ちりま小橋

一尾のまぶらも奥のたふら

一本のくまも奥のたふら

一柳のまぶらも奥のたふら

おろしやうー おろしやうー おろしやうー

一端のくまも奥のたふら

おろしやうー おろしやうー おろしやうー

おろしやうー おろしやうー おろしやうー

おろしやうー おろしやうー おろしやうー

おろしやうー おろしやうー おろしやうー

いまも祝とまふと唱まふと詠まふと傳
 あふとねまふと叶まふと狂まふと致
 まふと救ひまふと指あまふと津むまふと向
 まふと定路まふと碇まふと味流まふと傳
 まふと遠志まふと随まふと移まふと占
 まふと奔行まふと踏まふと嫌やまふと貴
 右に赤に中のひと陰るとあり

さくへ 景 うへ 極 ちへふへ 黄 るりよへ 加
 此亦あちこみえしひふへかに加るふみまれば左小徳のへ
 ちのけ敷くしひきてと申れんや奥の志やあざりまは
 になさこひひよかあらひととあらん人白あつて
此亦あちこみえしひふへかに加るふみまれば左小徳のへ

一 杉くの志と下にきり

了急 左急 す急 末 小急 舞 い急 家
 う急のへ 右急の 左急のへ 右急のへ 左急のへ 右急のへ
 右杉くの志くふあまこあまが記りや

一 徳のいと下にきり

おいのねあ かんす んんさん たしあ
 みるく みるく けだ徳のいと下にきり

一 才のねと下にきり

あまこにうまかそと一ふふしむい中のねあへた人を
 うねあ井くねあふと後まうふふと申て中のねとくし

くらわ たぢわ くと井 うねうらり
 ちの志む ばねよ 志ねて ちへね
 かこねふ よね ちちねて きせね
 いの井 ふねあつ 此敷あづぶ
 うねあつにきり 下のひくねあふにきり

とう 倍 びやし 注 せう せう 燦 ちやう ぎ せう せう 堂 せう せう 堂 隆
おらけ 備 せう せう 料 事

右 考 じ せう せう の 下 せう と 後 大 畧 せう の 字 成 べし 割
ふ せう せう せう と せう せう せう の 字 せう と 後 せう べし 注
て 後 せう せう せう の 字 成 べし

一 せう せう せう の 字 成 べし 注 せう せう せう の 字 成 べし 注
む せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう
む せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう
む せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう
む せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう

せう せう せう の 中 せう せう 蘭 と せう せう 難 波 と せう せう

一 丹 波 と せう せう せう せう と せう せう せう せう せう せう

一 せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう

右 考 じ せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう
せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう
せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう

紙 短 尺 寸 法 書 法

世 俗 判 断 せう せう せう 人 種 判 断 紙 短 尺 寸 法 と せう せう せう
せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう
せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう せう

此魚紙は大中 平人のほくふとさた人尺の寸法 長サ一尺一寸五分
小の寸法五寸五分 但中魚紙の寸法これより二寸五分
 小の寸法五寸五分 長サ一尺一寸五分 但中魚紙の寸法これより二寸五分
 寸の寸法五寸五分 長サ一尺一寸五分 但中魚紙の寸法これより二寸五分
 寸の寸法五寸五分 長サ一尺一寸五分 但中魚紙の寸法これより二寸五分
 寸の寸法五寸五分 長サ一尺一寸五分 但中魚紙の寸法これより二寸五分
 寸の寸法五寸五分 長サ一尺一寸五分 但中魚紙の寸法これより二寸五分
 寸の寸法五寸五分 長サ一尺一寸五分 但中魚紙の寸法これより二寸五分
 寸の寸法五寸五分 長サ一尺一寸五分 但中魚紙の寸法これより二寸五分

魚紙の長
 去の并れ
 くれやう
 あえん

是よりりも
 目こそ
 せんゆあ
 ね乃
 のや

閑居 加ふ世の様がらね相まゝ

しろ物ひふ
 あり
 かこれ
 こらあ
 ね

能きなりれば米の清り

たろ白のうし

魚はやもあよぬあまうり葉のあね 海

これきこふうあひまうし白にては義のひらをかきうらひ

罪のわざもれそろしきれとあやううにとすうらうと

やらん

ま二賦く竹

まきたちり花ふあうり山を録うれ

宗親を尋のい白くまらふ

山乃まや一見さうりあ乃海

かうたあごその乃海ぬきこれあ 海

ま三比く竹

はうぬ録ひくやうあうりこれ 貞徳

あ乃和方く竹や月日星 孝

うらきこれあひさけくやとんを録 海

ま四真く竹

まうぬくたうらわの月侍 孝

まうたや女さうり乃 抄あんろ 海

ま五又録く竹

鳳凰を雲のしほきくりのかき 貞徳

おさくといまひくくく玉きりり 季比

灯の火を火と金とくればかり 普水

けうの病中のひびし

まふ頌し辞

位おきハそとと梅のこころが 貞徳

冥加あれが者ふあやめをふれ自し 季比

まふふふ神を月あらし世ひが 普水

実家々のかせりる和家のふかきこふと十軒と一人の越と

月てそまくににぎひく海とや秋ふ大切のこころ人こそ

あやたとり生け終去軒とほきん人ふヲニトリヒロシ懸柱軒と若ん

よの何のいさるぶさ能借やと月る人一と只此の従えりあま

たそ御のつと屋生の横と月をくそれふ海とくさああた

ちひらるとやそれよかとなりば角とばとく初めの人あか

のぶひなるとかふのこがかり海とらんかうからとてん

とうく何のたふとあれきふよかふるとうあざうとくひと

ひるくは野まの五圃のローとくれはと法の巻能儀

深まらびうくまづんとあざりとも初めん時をひて

先はこれやとはたれの後法身自性自性自性
にゆきしんかちおふくあまこの月神をとれ乃はうら
さうりおだれおさう初者あさうらびはさびらんか
くまごころかたらのゆくとこれさうかばとありおけ
乃ふおひく雲中の雲あふく

凡を誦よ二の換あう乃とほくおさう人の三昧に入ら
とく心とあひあき出雲の境に入て人さふらさめ玉を兼
ましくあうことかぬおどの人のあまのまらをかぬとて
それとあふうらびおさうあふくおさうあふく

ま席のやうとさうりてあふくあふくさうくともPおは
但是はふ時のまをどはくのるえおとあひゆく月台に
はづきさういはとさうく沈思とてたての廣の賈あま
宿池中樹とゆふをゆてあまの白に推鼓とさうゆさう
おはさうくやうくおまお持ふとまに懸月に誦といひあ
あとお初侍ふ月神あふれはさうあまあまといひ後者
先達の換りたるあまのあまの月神まといひゆく一平くさ
ふあといまご人の後世の月神とやあくとつあはつて
あま細川ま言れ神後月神おあま持ふと風さうく信と

くまて 漢魏唐室一辨別とよもき 飛借控くはぐく 念徳の
流ゆと只 尚書に 題とたぐとありくく ちんちんとあまふ
ゆぐく 孫武解きとくく ちんちんちんちんちんちんちんちん
飛のたきあぐく ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ふちんちん 沈思せられけりや

紙のまわりのこと

貞徳の流しは 紙おととくまぐくく 念徳とPとそれれど
あまふちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
けりけり

きさ

紙何衣連歌

年とくは 月とれども 花はさつとくれ

紙何袋紙借

あれならく 何のものを 世く乃ま

紙借

そいふ紙とく ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
物ふくく 白中のまきとく ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
ののちんちん 乃白の花をく ちんちんちん

御何

新代もも ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
梅乃紙

きさ

そいひ

格何

天の川ありてんありたか

そハ格ありとあるん余ハそありてんありてん
一字あり歌

たありてんありてんありてん

そハ白中の格とあるんありてん

二字あり歌

ありてんありてんありてん

そハ白中の格とあるんありてん

三字あり歌

ありてんありてんありてん

そハ白中の格とあるんありてん

四字あり歌

ありてんありてんありてん

そハ白中の格とあるんありてん

五字あり歌

ありてんありてんありてん

そハ白中の格とあるんありてん

畧 たゞのふしづと下畧
たゞのふしづと下畧 たゞのふしづと下畧 たゞのふしづと下畧
と云ふ

白書山のひらけしやうれ
そは白中のけとをくせんとせう

二字除書

終のあつて終へのりれ籍せんを

そは籍といふ字の魚書をきてきて仕立てる

他流

そやちじああしちひの

そは毎の字に木書とそく梅とわたりたるを中みそ
そは毎の字に木書とそく梅とわたりたるを中みそ
そは毎の字に木書とそく梅とわたりたるを中みそ
そは毎の字に木書とそく梅とわたりたるを中みそ
そは毎の字に木書とそく梅とわたりたるを中みそ

同書はくり仕やう

あつひの扉席さこのあつひの二紙よりとを横りのをたれた時
横りの一紙が玉書はくつとあつひの二紙よりとを横りのをたれた時
横りの一紙が玉書はくつとあつひの二紙よりとを横りのをたれた時
横りの一紙が玉書はくつとあつひの二紙よりとを横りのをたれた時
横りの一紙が玉書はくつとあつひの二紙よりとを横りのをたれた時

或人の遺書ありて其の旨は...
あはれは...
るる...
人

辨法とて上之巻終

主

白石氏



